

# 窓

京都新聞 令和元年（2019年）5月15日（水）

## 乳児院志望 心に寄り添う

木津川市・大竹 はる（大学生・19）

私は1年前、大学生になった時、大きな夢を持っていました。それは「保育士になりたい」ということです。中学校の頃、初めて保育所体験をした時に、子どもたちがとてもかわいく元気いっぱい、こんな所で子どもと関わりながら、仕事がしたいと思うようになりました。

しかし、大学に入り、私の夢は少し変化しました。保育所ではなく乳児院で働きたいと思うようになったのです。乳児院とは、いろいろな事情により、保護者との生活が困難である1歳未満の子どもを、保護する施設のことです。

大学の授業の中で、さまざまな子どものビデオを見るなど、子どもについてたくさん学ぶ機会がありました。その中でも乳児院のビデオは特に印象深く、私の心を動かしました。将来、乳児院に就職できたら、子どもの心に寄り添える温かい保育者になりたいです。卒業までの3年間、もっと子どもについて知っていきたいと思えます。